

かけはし

会報 77号 発行: 特定非営利活動法人全国LD親の会 発行人: 東條 裕志
 事務局: 〒151-0053 東京都渋谷区代々木 2-26-5 パロール代々木 415
 TEL/FAX: 03-6276-8985 E-MAIL: jimukyoku@jpald.net URL: http://www.jpald.net/



特定非営利活動法人
JPA LD
 全国LD親の会

特別支援教育支援員養成事業



文部科学省のパンフレット「特別支援教育支援員を活用するために」(平成19年6月発行)には、特別支援教育支援員の役割について「小・中学校に在籍する発達障害を含む障害のある子どもたちを適切に支援することが求められています。教師のマンパワーだけでは十分な支援が困難な場合があります。その背景として、特別支援学級や通級による指導の対象者が増加していること、通常の学級に在籍する発達障害のある児童生徒への教育的対応がますます求められていること、児童生徒の障害の状態が多様化していることなどが挙げられます。このような状況を踏まえ、政府においては、食事、排泄、教室移動の補助といった学校における日常生活上の介助や、LDの児童生徒に対する学習支援、ADHDの児童生徒に対する安全確保などの学習活動上のサポートを行う者を「特別支援教育支援員」という広い概念で整理し、本年度から地方財政措置を行うことになりました」と述べられています。

「せっかく、特別支援教育支援員が付くなら、良い支援をして欲しい」というのは保護者の願いです。そこで、全国LD親の会では5年前より特別支援教育支援員の養成に関する研究に取り組んでいます。特別支援教育支援員の養成のあるべき姿を示し、特別支援教育支援員の資質の向上を図り、発達障害などのある子ども達への支援の充実に資することを目指しています。研究の成果として、全国で使えるようなカリキュラム体系の標準形を示すことも目標に、①カリキュラム体系 ②シラバス ③養成講座の試行実施 ④テキストの作成という手順を踏んで進めています。

今年度は、全国のどの市町村においても、一定レベルの養成講座を実施することができるように、各地の親の会と協力しての養成講座の実施や汎用的に使えるテキストの作成に取り組んでいるところです。

カリキュラムの内容は、特別支援教育支援員だけでなく、ボランティア支援員や放課後デイサービスの支援員、その他の発達障害児支援に携わる方々にも活用可能な内容が含まれています。

今年度の養成講座は、試行を重ねてきた特別支援教育支援員養成講座を神戸市で、ボランティア支援員養成講座を福岡市と東京都渋谷区で、本格実施しています。

【養成講座】

① 特別支援教育支援員養成講座 (支援員コース、学習支援員コース)

場所: 神戸市勤労会館

協力: 兵庫県 LD 親の会「たつの子」

受講生:

支援員コース[5日間(21科目/30時間)] 51名

学習支援員コース[7日間(27科目/41時間)] 17名

講師:

一般社団法人日本 LD 学会、一般財団法人特別支援教育士認定協会のご協力を得て、特別支援教育士 SV の有資格者等を中心に依頼

◆プログラム

【支援員コース・学習支援員コース共通】

第1日 8月31日(土) 9:20~16:50

	科目
	オリエンテーション
1	特別支援教育概論 竹田契一(大阪教育大学 名誉教授)
2	特別支援教育支援員としての業務 大谷和夫(子育てサポートIdeCAT代表)
3	特別支援教育支援員としての倫理・心構え 大谷和夫(子育てサポートIdeCAT代表)
4	主な障害の特性の理解(1) 森田安徳(神戸親和女子大学 准教授)
5	主な障害の特性の理解(2) 森田安徳(神戸親和女子大学 准教授)

第2日 9月1日(日) 9:20~16:40

6	学級・学校での支援の仕方 中尾繁樹(関西国際大学 教授)
7	担任との連携の仕方 中尾繁樹(関西国際大学 教授)
8	子どもへの対応の基本(1) 苫廣みさき(堺市立五箇荘東小学校 教諭)
9	子どもへの対応の基本(2) 苫廣みさき(堺市立五箇荘東小学校 教諭)

第3日 9月21日(土) 9:20~16:40

10	子どもの特性と対応方法(A)-① 自立生活面の困難とサポート方法 松久真実(プール学院大学短期大学部 講師)
11	子どもの特性と対応方法(A)-② 学校生活面での困難とサポート方法 松久真実(プール学院大学短期大学部 講師)
12	子どもの特性と対応方法(A)-③ 社会性・コミュニケーション面の困難とサポート方法 伊丹昌一(梅花女子大学 教授)
13	子どもの特性と対応方法(A)-④ 行動面の困難とサポート方法・ロールプレイング 伊丹昌一(梅花女子大学 教授)

第4日 9月22日(日) 9:20~16:40

14	子どもの特性と対応方法(A)-⑤ 介護・介助の基礎、移動介助 中尾繁樹(関西国際大学教授)
15	子どもの特性と対応方法(A)-⑥ 聴覚障害 森田雅子(大阪市立聴覚特別支援学校長)
16	ペアレントトレーニングの視点① 河内美恵(まめの木クリニック 心理士)
17	ペアレントトレーニングの視点② 河内美恵(まめの木クリニック 心理士)

第5日 10月19日(土) 9:20~16:50

18	子どもの特性と対応方法(A)-⑦ 視覚障害 田中良広(国立特別支援教育総合研究所)
19	保護者への対応 内藤孝子(NPO法人全国LD親の会)
20	特別支援教育コーディネーターからのレクチャー 高畑英樹(神戸市立青陽西養護学校 教諭)
21	現役支援員からのレクチャー・ワーク 特別支援教育支援員 3名
	修了式(支援員コース) 修了者46名

【学習支援員コース】

第6日 10月20日(日) 9:20~15:40

22	学習面の困難とサポート方法 3 算数 ワーク 栗本奈緒子(大阪医科大学LDセンター 言語聴覚士)
23	学習面の困難とサポート方法 4 教材・教具の利用方法 ワーク 山田充(堺市立日置荘小学校 教諭)

第7日 11月10日(土) 9:20~16:50

24	学習面の困難とサポート方法 1 読み書きの困難とサポート方法 村井敏宏(奈良県平群町立平群東小学校 教諭)
25	学習面の困難とサポート方法 2 聞く・話すの困難とサポート方法 村井敏宏(奈良県平群町立平群東小学校 教諭)
26	子どもたちに接する時のポイント 梅田真理(国立特別支援教育総合研究所)
27	ロールプレイング・グループ討議 梅田真理(国立特別支援教育総合研究所)
	修了式(学習支援員コース) 修了者 16名

受講生の満足度は「とても満足している」89%、「やや満足している」11%で、「基本的なことから具体的な事例まで、学習したかったことが網羅されていて、とても満足です」「学校現場で支援員・介助員として子どもの支援にあたる際、必要な知識や実践、ノウハウについて様々な角度から学ぶことができ、充実した研修でした」との感想をいただきました。

8月から11月にかけて長丁場でしたが、充実した講座にすることができました。講師の先生方、運営協力いただいた「たつの子」の皆様ありがとうございました。

② ボランティア支援員養成講座

【ボランティア支援員養成講座 in 福岡】

日時:2014年 1月 11日(土)、12日(日)
場所:ふくふくプラザ(福岡市市民福祉プラザ)
協力:福岡発達障がい者親の会「たけのこ」
後援:福岡県教育委員会、福岡市教育委員会

【ボランティア支援員養成講座 in 東京】

日時:2014年 2月 15日(土)、16日(日)
場所:国立オリンピック青少年総合センター 研修室
協力:にんじん村
後援:東京都教育委員会、渋谷区教育委員会

(内藤孝子)

発達障害児のためのサポートツールの 個別の使い方とユニバーサルデザイン化



「発達障害児のためのサポートツールの個別の使い方とユニバーサルデザイン化」事業は、国が進めてきた「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進」という流れの中で、当事者団体の視点でサポートツール・データベースを提供していくことを目的として、サポートツール・データベースの構築・フォーラムや研修会の開催をしています。平成24年7月23日付、文部科学省の「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進」報告の【3.障害のある子どもが十分に教育を受けられるための合理的配慮及びその基礎となる環境整備】には、「基礎的環境整備」について以下のように整理されています。

○「合理的配慮」の充実を図る上で、「基礎的環境整備」の充実には欠かせない。そのため、必要な財源を確保し、国、都道府県、市町村は、インクルーシブ教育システムの構築に向けた取組として、「基礎的環境整備」の充実を図っていく必要がある。その際、特別支援学校の「基礎的環境整備」の維持・向上を図りつつ、特別支援学校以外の学校の「基礎的環境整備」の向上を図ることが重要である。また、「基礎的環境整備」を進めるに当たっては、ユニバーサルデザイン(*5)の考え方も考慮しつつ進めていくことが重要である。

(*5)バリアフリーは、障害によりもたらされるバリア(障壁)に対処するとの考え方であるのに対し、ユニバーサルデザインはあらかじめ、障害の有無、年齢、性別、人種等にかかわらず多様な人々が利用しやすいよう都市や生活環境をデザインする考え方。障害者の権利に関する条約第2条(定義)において、「ユニバーサルデザイン」とは、調整又は特別な設計を必要とすることなく、最大限可能な範囲ですべての人が使用することのできる製品、環境、計画及びサービスの設計をいう。ユニバーサルデザインは、特定の障害者の集団のための支援装置が必要な場合には、これを排除するものではない、と定義されている。

有効なサポートツールを合理的配慮として使用する上で、基礎的環境整備の充実には欠かせません。一人一人のニーズに合ったサポートツールを必要な場面で、有効に取り入れるためには、どのような環境が必要で、どのような使い方が可能なのでしょう。2013年度の第12回全国LD親の会公開フォーラムは、「特別支援教育の推進～一人一人の学びを保障する支援の在り方～」として、「発達障害児のためのサポートツールの個別の使い方とユニバーサルデザイン化」事業の内容をふまえて開催しました。

公開フォーラムのシンポジウムでは、近藤武夫先生(東京大学先端科学技術研究センター)から、「ユニバーサルデザインの考え方は、ひとつのもので何にでも対応できるというのではなく、多様な参加の仕方ができるような準備性を高めておくということ。例えば、デジタル教材を用意しておけば、いろいろな変更が可能なので、対応の幅が広がる。その多様な参加の仕方の一つ一つが合理的配慮であり、そういう意味でユニバーサルデザインと個別の対応—合理的配慮は、いわば車の両輪のようなもの。」というお話がありました。

また、今川恵美子先生(池田市立石橋小学校)からは、「授業のユニバーサルデザイン化を進める上で、共に学ぶために子ども達が対等な関係で結ばれた、自主的・自発的に活動できる環境を作ることが非常に大切。特定の子に配慮をしてあげているという前提で作られた集団ではなく、子どもたち同士が同じ立場で同じ目線でつながっていて、お互いの違いを肯定的に認めあえるような関係にある集団があって、初めて個別の支援ができる。」というお話をいただきました。

合理的配慮を受けられるように、私たち保護者もしっかり学んでいきたいと思えます。

サポートツール全国キャラバン 2013 教材教具研修会

「発達障害がある子ども一人ひとりのニーズに応じた

指導・支援の具体的方法」

① サポートツール全国キャラバン 2013 in 長野

日時:2013年12月1日(日)10:00~16:30

会場:児童発達支援センター「にじいろキッズらいふ」

参加者:90名(親の会会員30名、一般60名)

共催:長野県LD等発達障害児者親の会「よつ葉の会」

講演1「発達障害のある子どもの特性に沿ったサポートと教材の活用」～使い方が変わる教材の有効性～
講師:山田充氏

(特別支援教育士スーパーバイザー)

講演2「作業の工夫で子どもたちを元気に！」～発達障害のある子どもたちに応じた教材教具の工夫～
講師:丹葉寛之氏

(藍野大学医療保健学部作業療法学科講師)

各講演のあと、グループに分かれて事例検討のワークショップの時間を持ちました。各グループの発表後、先生方のコメントで課題が整理され、専門的で具体的な支援方法のヒントを得られ、支援者、保護者それぞれにとって大変有意義なワークショップになりました。

② サポートツール全国キャラバン 2013 in 静岡

日時:2014年2月16日(日)10:00~16:40

会場:静岡県コンベンションアーツセンター/グランシップ

共催:静岡県LD等発達障がい児・者親の会「きんもくせい」

詳細は、全国LD親の会HPをご覧ください。(井上)

一般社団法人日本LD学会 第22回大会報告

2013年10月12日(土)～14日(月・祝)

会場:パシフィコ横浜

テーマ:「多様なニーズへの挑戦」

～たて糸とよこ糸で織りなす新たな教育の創造～

2013年度の日本LD学会大会のプログラムは、1日目は1階だけで3,260席という大きな国立大ホールに参加者全員が集まって講演をお聞きし、2日目・3日目は会議センターの複数の会場でいろいろなプログラムが進行するという形で開催されました。

1日目午前中は、大会長の柘植雅義先生、理事長の上野一彦先生のご講演がありました。柘植先生が、多様性の重要性ということで、様々な分野の方が書かれた書籍を紹介され、「不揃いの材で作った法隆寺や薬師寺の塔は、それぞれが1本1本持ち分を活かしながら支え合っている」という宮大工のかたの文章が心に残りました。上野先生の「日本LD学会にもTPPがある。TeachersとParentsとProfessionalsで、教師・保護者・専門家。」というお話は、参加されていた保護者の心に響いたのではないのでしょうか。全国LD親の会は設立当初から、多くの皆さまのご支援によって歩んできたことを感じました。

午後からは特別支援教育以外の分野でご活躍されている3名の先生方の特別講演と、それに続いて大会企画シンポジウムが開催されました。

○特別講演Ⅰ「多様な能力へのニーズとインクルージョン教育の本質 ～国際化時代の教育先進例としてのオランダの教育～」講演者:Naoko Richters氏(オランダ教育・社会研究家)

「オランダの教育は、およそ100年前の1917年に既に憲法改正によって『教育の自由』が確立されており、更に70年代以降の教育改革によってインクルージョンの概念が定着していたところに、いわば自然発生的な流れの中で、90年代特別支援教育が導入された。」

共生社会の形成には、自らが責任を持って選択していく自立した市民の存在が不可欠で、インクルーシブ教育システム構築についても、一人一人が当事者意識をしっかりと持って動いていく必要があると感じました。

○特別講演Ⅱ「想像するちから ～チンパンジーが教えてくれた人間の心～」講演者:松沢哲郎氏(京都大学霊長類研究所)

「人間とは何か。言葉である。言葉とは自分の見たこと、経験したことを持ち運べるということにその本質がある。経験を仲間の元を持って帰り、更にその経験を仲間と分かち合うことができる。そう考えると、言葉は発し手側よりも、むしろ受け手側に言葉の本質がある。受け手側にコミュニティがないと言葉が言葉として機能しない。」

チンパンジーの子どもがPCの画面上にランダムに出た数字を一瞬見ただけで覚えてしまう直観像記憶には驚き

ましたが、何よりも「心の進化」「言葉の本質」のお話に、多くのヒントをいただきました。

○特別講演Ⅲ「子どもの学びの多様性と保育・授業」講演者:秋田喜代美氏(東京大学)

「子どもの学びが深まる時には、必ずそこには責任感が存在し、より深い挑戦的な課題が存在し、そしてコミュニティ帰属の意識がある。そして、誰に届けたいかという宛名が必ずあるということが、多様な学びを保障していくのではないか。」

子どもも自分の〇年〇組の中で、自分の役割を果たし、認めてもらうことが何よりも大きな成長へとつながるということ、そして、自分たちも社会の一員であるという感覚を育てていくことが、共生社会の形成へとつながっていくのではないかと改めて思いました。

今回の大会テーマである「多様性」がたて糸とよこ糸で織り込まれて、一人一人模様の異なった支援という織物を身に纏うことができたなら素晴らしいと感じた今年の大会でした。参加された親の会の皆さんも、聞きたい内容が重なっていることに悩みながらも、2日目、3日目の企画を選んで参加されていました。

親の会企画シンポジウム

日時:10月13日(日) 10:00～12:00

テーマ:学習への支援と教材の活用～一人一人の学びを保障する支援の在り方について～

企画者:NPO法人全国LD親の会

司会者:内藤孝子(NPO法人全国LD親の会)

話題提供者:近藤武夫

(東京大学先端科学技術研究センター)

漆澤恭子(植草学園短期大学)

井上育世(NPO法人全国LD親の会)

指定討論者:丹羽登(文部科学省特別支援教育課)

インクルーシブ教育システム構築においては、一人一人の子どもが学習活動に参加している実感、達成感を持ちながら、充実した時間を過ごしつつ、生きる力を身につけていけることが最も本質的な視点であり、そのための環境整備が必要です。通常の学級では、全体に効果的な指導とともに、特別なニーズのある子どもへの指導や授業の内容と方法の工夫等の学習への支援が求められていることから、今年度の日本LD学会大会では、親の会として「学習への支援と教材の活用～一人一人の学びを保障する支援の在り方について～」をテーマにシンポジウムを企画しました。



○「テクノロジーを活用した学習の支援について」

近藤武夫先生からは、東大先端研や DO-IT Japan の取り組みをご紹介いただきながら、テクノロジーを活用した学習の支援についてお話いただきました。

・紙に印刷されたものを読むことに困難がある障害(印刷物障害)には、視覚障害も、ページめくりができない肢体不自由も、書いてある文字をうまく認識できないディスレクシアも含まれるので、世の中には印刷物だとその内容にアクセスできない人がかなりいる。

・学校の教室などでは教科書を始めとして、紙と鉛筆を主なツールとして使うので、学習への参加に困難がある場合が多いが、テクノロジー(音声読み上げ機能や、文字の色やサイズなど画面表示調整機能、録画・撮影・録音機能、音声入力機能など)で別のアクセスの方法が認められれば、基本的な学びの機会を増やすことになり、彼らなりのやり方で学習に参加していくことができるようになる。

・障害のある子にアクセシビリティを確保するということは合理的配慮という権利保障の問題であり、教師が教える事を円滑にするツールではなく、本人の自立や自己決定を支援するツールととらえていく必要がある。

○「どの子の学びも保障される特別な支援が活きる学級の環境作りについて」

漆澤恭子先生からは、特別支援教育の視点からの学級の環境作りについてお話いただきました。

・通常の学級では、「個別の支援」が必要のない子と必要な子との間で、支援について折り合いをつけるということが、教室環境を整える上で重要になる。

・「個別の支援」を通常の学級でおこなうためには、「特別な支援」が皆にとって、誰でも利用できる当たり前の支援という認識になっていることが大切。

○「一人一人の子どもの特性に応じた支援の在り方」

全国 LD 親の会の井上からは、弊会で研究を重ねてきたサポートツール・データベース事業の取り組みについてお話ししました。発達障害のある子ども達の学びのためには、子どものニーズに合ったサポートツールを、子どもの特性に沿った使い方で、どの学びの場でも使用できるようにすることが必要です。「これならできる」という自分に合ったサポートツールを使いこなしていくことが、自ら学んでいく力をつけていくことにつながり、本人が自己理解を進めていく道筋になっていくのではないかと思います。

○指定討論

指定討論者の丹羽登調査官からは、「自分が困っていることを伝えていくことが特別支援教育の出発点ではないか」「WHO が提唱した国際生活機能分類 ICF を踏まえると、子どもたちがいろいろな活動に参加して、将来自立した生活を目指していくために、心身機能・身体構造を伸ばすだけでなく、支援機器を使ったりして教室環境を整え(環境因子)、子どもたちがもうちょっと頑張りたいという気持ちを持たせていくこと(個人因子)が、大きな影響を与える」といったお話がありました。

そして、「ユニバーサルデザインについての考え方」や「子どもへの支援を成長段階によって変えていく必要性」「(教材や合理的配慮についての)データベースを使う際の注意点」などについて話し合いました。近藤先生の「自分に必要なものを、自分で説明して獲得していく力(セルフアドボカシー)をつけていくことが大切」というお話から、人が自分の道を切り開いていくベースについて考えさせられました。

親の会企画シンポジウムには、部屋の定員いっぱいの138名が参加してくださいました。用意した配付資料が足りなくなってしまい、遅く入室された方にお渡しできず、申し訳ありませんでした。テーマに沿ってまとまりのある充実した内容となり、今後の「合理的配慮」「基礎的環境整備」について、具体的に考えることができました。(井上)

親の会紹介ポスター展示

2013年10月13日(日)・14日(月・祝)の2日間、パシフィコ横浜3Fのホワイエで、各地の親の会が作ったポスター展示を行いました。今年は17の親の会が参加しました。出展した会は、「クローバー」「麦」「コスモ」「けやき」「にんじん村」「にじの会」「新潟いなほの会」「ゆうの会」「れんげの会」「かたつむり」「トムソーヤ」「おたふく会」「翼」「たつの子」「はあとりんく」「明日葉」「たけのこ」です。

展示場所のホワイエは、大きなガラス窓から横浜港が一望できるとも明るいところでした。ホワイエは休憩スペースになっており、また、教育講演や資格更新基本研修が開催される大きな会議室の出入口にもなっていたので、多くの参加者が親の会のポスター展示コーナーに立ち寄ってくださいました。また、大会実行委員会のご配慮で、親の会控室も用意していただき、大会参加した親の会の皆さんとゆっくりと交流を深めることができました。



今年も昨年度に続き、参加した親の会紹介ポスターを全国 LD 親の会のホームページに掲載していますので、ぜひ、ご覧ください。

親の会懇親会

10月13日には、大会会場に近い桜木町駅前で、親の会主催の懇親会を行いました。親の会会員32名と親の会企画シンポジウムにご登壇いただいた近藤先生(東京大学)と丹羽調査官(文部科学省)にも参加いただき、とてにぎやかな懇親会になりました。幹事を引き受けていただきました地元の神奈川 LD 親の会「にじの会」の皆さまには、親の会ポスター展示、控室スタッフ、懇親会と2日間にわたり、ご尽力いただきました。ありがとうございました。

(内藤孝子)

一般社団法人 日本発達障害ネットワーク (JDDネット)より

体験博覧会&第9回年次大会報告

テーマ:「発達障がいとコミュニケーション

～そのゆたかなつながり～

2013年11月30日(土)、12月1日(月)に東洋大学白山キャンパスで、日本発達障害ネットワーク(JDDネット)の第9回年次大会が開催されました。

30日には、体験博覧会で17のワークショップと機器の展示があり、延べ287人が参加しました。ワークショップでは、相川恵子先生が「学校現場における合理的配慮」についてお話されました。機器の展示では、話題のタブレット端末を使ったソフトや、体に締め付け感がある方が落ち着く人のために、空気圧で自由に体を圧迫できる上着などが展示されていました。ワークショップの後、懇親会があり、JDDネット参加の各団体の方々と、日頃の活動や各地の動向等の情報交換もできました。

1日には、評議員の内藤聖子さんの司会のもと、「発達障害のある人が元気に働き続けるために」というテーマで、文京学院大学人間福祉学科の松為信雄教授と厚生労働省障害者雇用対策課地域就労支援室の金田弘幸室長にご講演いただき、司会と参加者からの質問にお答えいただきました。参加者は73名でした。

松為教授からは、「キャリア」が働くこと(職業人としての役割)だけでなく、生きること(役割の理解と自由選択)と

学ぶこと(情報の収集と統合化と自己決定)を含めて総合的に考える必要が有ることや、就業への準備で最も大切なことが自己肯定感の育成であること等のお話がありました。また、発達障害のある人は「情報の伝達の仕方が異なる」ことを企業の幹部に理解してもらうことが大切だとのお話もありました。



金田室長からは、発達障害者を取り巻く障害者雇用の状況や、発達障害者に対する雇用支援策、また、就労支援を行う上での課題について、説明していただきました。

準備から当日の業務を行ってくださった、関東ブロック評議員、また、にんじん村とけやきの皆さん、ありがとうございました。

第10回JDDネット年次大会は、2014年 7月5日(土)、6日(日)に札幌で開催の予定です。 (東條)

全国特別支援教育推進連盟 より

12月6・7日、国立オリンピック記念青少年総合センター(東京都渋谷区)にて、全国特別支援教育推進連盟の結成50年記念式典と第36回全国特別支援教育振興協議会が開催され、280名ほどの参加がありました。

式典では、下村文部科学大臣・前川初等中等教育局長のご臨席のもと、特別支援教育功労者の表彰式が執り行われ、大臣から直接、代表者に表彰状が授与されました。(全国LD親の会からは、山岡修顧問が功労者として大臣表彰を受けました。)

その後、推進連盟理事長 大南英明先生より「我が国の特殊教育・特別支援教育の変遷と推進連盟の50年」とのテーマで、養護学校教育の義務化から特別支援教育への転換までのあゆみを詳しくお話いただきました。全国LD親の会が産声をあげた平成2年の「学習障害(LD)児の教育を考えるシンポジウム」に、当時、文部省特殊教育課調査官であった大南先生がシンポジストとして参加されていたというお話があり、浅からぬご縁を感じました。改めて感謝とともに、多大なご尽力があつて現在の支援制度

に繋がっていることを痛感しました。



振興協議会では、加盟団体の意見発表があり、様々な障害者団体の方のお話を聞くことができました。全国LD親の会のあゆみやLD等発達障害児・者の現状についても発表しました。障害者権利条約の批准に向けて、大きく社会が変わろうとしている今、関係団体との連携を深め、当事者の声を発信していくことの大切さを肌で感じる大会となりました。 (多久島)

●特別寄稿

ペアレント・メンターの活動

特非)愛知県自閉症協会・つぼみの会 理事
日本ペアレント・メンター研究会
加藤 香

ペアレント・メンター養成研修が始まった時には、今の
ような時代がやってくるとは夢にも思いませんでした。最初
は全国各地の親の会の代表や役員が集まって研修を受け、
地元に戻り相談活動への拡充をそれぞれ進めてきたと思
います。当時の研修パッケージが改定を繰り返し今の形に
なってくると同時に、私たち親も親なりにこの研修を地
域活動に活かさないかと考えてきました。「ペアレント・
メンター？聞いたことない。親が壇上に立つなんて何を
考えているんだ」という声も正直ありました。その中でも
地道にメンター活動を行い、地域に根付くよう活動して
きました。私自身も「メンター？何、それ？」という意識
でしたが（というより、研修ということすら知らずに会場
に行ったというのが本当ですが・・・）、研修を受けたか
らには何か自分のできることを探さなくては・・・と模
索した記憶があります。

ペアレント・メンターの活動は「親の相談にのる」とい
うことだけでなく、その内容は様々あり、地域によって
違いがあります。ここでは愛知県の例から一部を紹介し
たいと思います。

まず、「相談活動」です。個別・電話・グループなど形
態は様々ありますが、ペアレント・メンターの相談の一
番の特徴は「共感できること」です。同じ発達障害の子
どもをもつからこそのわかる部分、ことばにしなく
ても通じる部分は、同じ経験をしてきたからこそのわ
かる部分であり、ここは専門家の先生には負けない
でしょう。この部分はメンターの強みでもあります。
そして子育てをしてきたからこそ得た「教科書にない
ノウハウ」をアドバイスしていきます。ただし、専門
家の先生方が行う支援の領域まで入り込んではいけ
ません。専門家の先生の手が届かない「親だからこ
その気持ちの部分」、そこに寄り添えるのがメンター
相談の特徴でもあります。

次にサポートブック研修です。本人が親の居ないところ
で本人らしく過ごすためのツールとして、サポートブ
ックが本人の特徴を代弁します。作って活用している
親だからこそ「ここが伝えにくい」「ここは書きに
くい」「この部分は理解されにくい」というアドバ
イスをしながらメンターが研修を進めていきます。
専門家の先生の研修ではないので、「私にも作れそ
う」と思ってもらいやすいようです。愛知県では
研修開始の2006年から現在までに2000人を
超す方にご参加いただくことが出来ています。

そして啓発活動です。キャラバン活動ともい
いますが、

発達障害の人たちの「見え方・聞こえ方・感じ方の
違い」などを伝え、社会で生きていくのに理解され
にくい部分を親が子どもに代わって伝えていきま
す。疑似体験なども盛り込み、参加者に体験して
いただくことで、発達障害の特性をひとりでも
多くの方にご理解いただくよう活動しています。
他にもペアレント・トレーニングの補助、各種研
修のお手伝いなど、ペアレント・メンターが全
国各地で様々な活動をしています。

愛知ではここまでの状況に作り上げるのに5年
を要しました。研修後のデータを集め、意見を
集約し、何度も改訂をくりかえしてきました。
そのパッケージも時代の移り変わりと共に、
徐々に変化させつつ、現在も検証を重ねなが
らすすめています。

事業を進めていくと、「メンター活動に必要なもの」
がさまざま出てきます。それらを慣れないなが
らも、あの手この手ですすすめてきました。「
もうだめだ・・・できない」ということも
多々ありましたが、多くの専門家の先生方に
支えていただきながら、今までやってきまし
た。また、先生方と一緒に養成研修を行う
側になると、違った面も見えてきました。
地域の支援機関がメンターに何を期待して
いるのか、受講者のみなさんがメンターに
どんなイメージを持って研修に望んでい
るのか、地域にどのようなメンター活動が
向いているのか・・・この経験を通して、
私自身色々な引き出しを作ることができ
ました。メンター事業を通し、全国各地の
みなさまに育てていただいたと感謝して
います。

今や、ペアレント・メンターに関する養成事業が
国の施策となり、「ペアレント・メンター」とい
うことばは当たり前のようになってきました。
しかし、資質以上のものを求められたり、
メンターがついついやりすぎてしまったり
・・・思ったように活動ができない、事業
が進まない・・・とさまざまな声も聞
こえます。行政、支援機関、メンターが
それぞれの特性を生かし、お互い支えあ
ってこの事業を進めていくのが理想では
ありますが、どうしても意見の違いも出
てきます。行政の事情、支援機関の事
情、メンターの事情をそれぞれが理解し
、その中でどうしていけばいいのかと一
緒に考えていく必要が出てきます。その
ためにも、ご自身の地域ではどんな活
動がいいのか、お互いがじっくり意見
を交わし、話しあい、無理のないス
ピードですすすめていただければと思
います。

メンター活動を続けながらも、「発達障害をもつ
子どもの親」の生活は続きます。親である
ことを忘れず、親だからできること、
親にしかできないことを考え、無理なく
安全に、時にはストレス解消もしっか
りしていただければと思います。心と
体を健康に、活動をお互いががんば
っていきませんか？

親の会設立準備を進めています！ 高知県 福島県 東京東部 (日本理学療法士協会助成金事業)

●高知県

高知県 LD 等発達障害親の会設立準備会は、連絡係の方々が中心になって、概ね月 1 回のペースで集まりを重ねてきました。「いろいろ勉強会を開きたい」といった要望もあり、高知で教育講演会を開催しました。高知の親の会設立準備会も共催ということで、開催に向けて一緒に準備を進めました。

親の会の名前も、「高知県LD等発達障害親の会 sky」(仮称)になりました。『空(sky)は、誰でも、どこからでも平等に見ることができる。晴天の日もあれば、雨の日もあり、曇りの日もある。発達障害とひと口にいても、一人ひとり違っている。それをいつも平等に、いつも自然に、私たちがみてる空。私たちが空のようでいたい。そして、世の中もそうあってほしい。』そんな思いを会の名前にしたそうです。会の名称は、設立総会決議を経て、正式名称になります。

教育講演会

「特別な関わりの必要な子供たちへの理解と支援」

～子どもへの対応の基本を学ぼう～

日時：2013年9月29日(日)14:00～16:30

会場：高知県教育会館 高知城ホール2階 大会議室

講師：梅田真理 氏

(国立特別支援教育総合研究所 教育情報部

発達障害教育情報センター総括研究員)

参加数：140名

後援：高知県教育委員会・高知市教育委員会

7月に講演会の内容、開催日時を決めてから、「sky」の皆さんが、講演会のちらしの印刷や配布、当日の仕事分担打ち合わせといった準備に奔走してくださいました。新聞に学習障害についての取材申し込みもしてくださって、記事を大きく掲載していただけたこともあり、講演会には定員を大きく上回る申し込みがありました。



講演会では、梅田真理先生から子どもへの対応の基本についてご講演いただきました。「障害者の権利に関する条約」への批准に向けて進められてきた「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特

別支援教育の推進」の流れを踏まえつつ、発達障害のある子どもたちの特徴と基本的な対応のしかた、子どもを中心とした家庭と学校、関係機関との連携の在り方、自立に向けて押さえておくべきことについてお話してくださいました。「障害者基本法」や「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」のことや「合理的配慮と基礎的環境整備の関係」といった難しい内容も大変わかりやすく説明していただき、参加者からも「良く理解できた」といった声をたくさんいただきました。

保護者や教員だけでなく、療育センター、教育センター、児童相談所、児童デイサービスなどの Dr、ST、心理職といった発達障害に関わる幅広い関係機関の専門家の方々がたくさんご参加くださいました。当事者、保護者、家族を支えてくださる方々の多数のご参加は、大変嬉しいことでした。

～アンケートから～

保護者

・改めて誉めることの大切さを実感しました。そして支援者の方々との信頼関係も大切ですね。

・発達障害のある子どもの特性がよくわかりました。ついつい自分の子どもの事を思いうかべて、もっと早く、この障害の事がわかっていればと、今まで自分のしてきた事に対して反省してしまいます。

・子どものことを理解しているつもりでしたが、まだまだ足りてないことに気づかされました。今後もこうした講演を聴講していき、知識・理解力を深めたいと思います。

教員

・発達障害があるなしにかかわらず、1人1人の子どもたちの特性を理解し、共に社会・家庭とつながることが大切だということを更に学びました。

・たいへん分かりやすく具体的な事例でポイントも説明いただきました。“障害名でなく本人の特性にあわせた支援”“社会ではたらく等をイメージしながらの支援”を学校でも大切にしていかなければならないと感じました。

その他 保育者、支援員、施設職員等

・特性を知って関わっていくこと、声をかけていくことの大切さを改めて感じました。自分だけのものにとどめず、周りの人、地域の人にも教えてあげたいと思います。

・お話が上手で明快でとても聞き取りやすく、法律のことも含めて詳しくお話しいただき、よく理解できました。

高知の皆さんの思いをいっぱい詰め込んで、来年度の設立総会へ向けて、「高知県 LD 等発達障害親の会sky」(仮称)として、準備・活動を進めていきます。(井上)

●福島県

11月4日(月、祝日)、山田充先生(特別支援教育士スーパーバイザー、自閉症スペクトラム支援士アドバンス、堺市日置荘小学校首席教諭/通級指導教室担当)を福島市のコラッセふくしまにお招きし、教育講演会「発達障害のある子どもの特性に沿ったサポートと教材の活用」を行いました。

午前部の講演では、認知特性の違いを把握して支援することが大切なことを、具体的な事例を基に説明していただきました。

- ・子どもの問題行動の原因が意欲の低下にある
- ・授業中に他の人が落とした文房具をすぐに拾ってあげるような良く気がつく親切な子どもが、実は授業に集中していないので授業の内容を把握していない
- ・漢字は「字」だけ覚えても使い方を覚えないと使えない(テストでも書けない)など、論理的な説明に皆さん納得していました。また、他の人から無視されている原因が、人と話をするときに相手の話に回答しないため、会話が成り立たなくなっているところにある。という例も伺い、さらに、そのような場合にどう対処したらよいのかも具体的に説明していただきました。



午後部のワークショップ「子どもの解答用紙から何を読み取るか？」では、実際に間違いのある答案を見て、その子が「なぜ間違えたのか」、その子どもの「苦手な部分は何か」を参加者全員がグループに分かれて分析、討論した後、山田先生から解説をいただきました。

講義の最後に実際の教材の使用方法についても説明をいただきました。参加者は21名と少なかったのですが、ほとんどの人が山田先生の講演を聞くのが初めてで、「目から鱗」といった状態でした。

講演会の後、短時間ながら相談会を行ったところ、高等学校の先生から、「普通高校を卒業するのも難しく、卒業しても就労までたどり着くのが難しい子どもたちのために、どう対応すればよいのか」という切実な悩みをいただきました。今後は、その子どもたちの保護者の皆さんとも連携していかなければならないと感じました。(東條)

●東京東部

東京東部地区では、親の会の設立準備の第一歩として今年2月に「発達障害児のためのサポートツールの個別の使い方とユニバーサルデザイン化事業」の研修会、サポートツールキャラバン2012を行いました。

日 時:2013年 2月10日(日)13:00~14:30

会 場:江東区教育センター

講 師:山田充先生、丹葉寛之先生

参加者:87名(保護者38名、教育関係者16名、支援者24名、その他9名)、

その際、東京東部地区親の会設立準備会の登録の呼びかけをしました。その呼びかけに5名の保護者、3名の支援者の方が登録して下さいました。その後、9月に初めて登録者の方に声かけをし、茶話会を行いました。

第1回 茶話会

日 時:2013年 9月9日(月)10:00~12:00

会 場:葛西健康サポートセンター

参加者:登録者4名

11月は、なかなか日程調整が難しく、また場所確保の問題もあり、参加者は、登録者1名と評議員2名とで今後の予定を話し合いました。

日 時:2013年11月20日(水)10:00~13:00

場 所:江戸川区葛西

参加された江戸川区在住の保護者の方からは、「発達障害のある子たちへの支援を行政や社会に訴えていくためには、保護者のつながりが大切」とのご意見がありました。療育機関は、探せば色々あるけれど、支援を求めていくには、親の会を設立して、親同士が力を合わせて、行政へ働きかけていくことが必要と感じておられるようでした。今後は、研修会へのお誘いをきっかけに仲間を増やし、設立に向け準備を進めていくことを確認しました。(木村)

次回の予定

日 時:2014年1月27日(月)11:00~13:00

場 所:南小岩コミュニティ会館 集会室 1

～ 親の会設立活動支援 ～

特別なニーズのある全ての子どもたちが、一人一人のニーズに応じた教育的な支援を受けられるようになるためには、各自自治体での取り組みが大変重要です。全国LD親の会では、全国団体に加盟している会がない県でも、たくさんの皆さんと繋がっていくために、親の会設立のためのお手伝いをしています。地域で保護者が共に子育ての悩みを相談し合ったり、子ども達へ必要な支援が届けられるように学びあったりできる場を広げていきたいと考えています。全国親の会のHPに設立支援活動に関するお知らせ等を掲載していきますので、皆様のお力添えをよろしくお願い致します。

関東ブロック便り

関東全 12 会の半分 6 会の活動紹介です

親自身をテーマにした交流会

～80歳の私を想像してみよう～

LD 発達障害児 者親の会「けやき」

お子さんの年齢が上がると共に、当然親も歳をとり、会員の高齢化が顕著になって久しいけやきではありますが、これまでは「子どもの将来のため」の自立を目的とした支援や制度を求める活動や、勉強会を開催してきました。

しかし、親自身いつまでも元気でいられるものではありません。もしもの時を考え、予習しておくことも、子どもの将来のためになると思い、エンディングノートを利用した交流会(勉強会)を開催しました。

まず行政書士の講師から、相続・遺言・信託など手続きを伴う事柄についての説明を受け、親(自分)亡き後の手続きは誰がやるのか・誰に託したいのかを決めておくことの大切さを学びました。少し身構えながら、初めて手にしたノートに、わたしのこれまでとこれからを項目ごとに書き込む作業では、「♥わたしが〇〇になったら、どうしたいのか」について、一つひとつゆっくり考えることができました。「♥わたしの笑顔(お気に入りの一枚を貼ってください)」には、参加者から「遺影用? いい写真がない」と一言。和やかな雰囲気交流会となりました。

今後、その都度の見直し・書き直しは必要で、身近に置いて手を加えていきたいと思えます。会員からも、将来を考えるいいきっかけとなったという感想が多くありました。資料は、講師が所属されている公益社団法人成年後見支援センターヒルフェのノート(非売品)を利用させていただきました。

笑顔のある活動を目指しています

埼玉親の会「麦」

親の願いは子供たち(本人)が生き活きた顔を見せてくれることです。教育グループ、就労グループそれぞれでそんな生き活きた顔を見せてくれる活動をご紹介します。

「麦」では、設立当初から小学生中心のレクリエーション「ストローハット」の活動を行っています。今年は、防災センターの体験・見学、料理、バーベキュー等、親子で楽しむ時間を企画しました。分かり合える者同士の時間、子供たちの笑顔がうれしいです。

また、18歳以上の青年を対象に、今年度「土曜クラブ」という「社会生活力の向上と仲間作り」を目的とした活動

が始まりました。9名が登録しています。ボランティアでファシリテーターを務めてくださる方に恵まれ、現在は「働く」をテーマに、今の自分を知り→できることを増やし→実践する、と学んでいます。社会の中で少しでも生活しやすくなる術を身につける機会です。また、ファシリテーターの方が、座学の他にメンバーを昼食会やハイキングなどにも誘ってくださり、楽しい時間を過ごしているようです。親は、その中から「仲間・友達」という意識が生まれ、本人同士で誘い合える関係が生まれることを望んでいますが、そこまでには時間がかかりそうです。

これまでは親たちが青年本人同士のレクの時間を企画してきましたが、なかなか自主的に集まるものにはなりません。それでもストローハットで知り合った子供たちの友達関係が青年になっても続くこともあります。仲間と過ごすことが好きかは個人差がありますが、子どもたちの生き活きた笑顔が少しでも増える事を願って日々活動をしています。

第2弾「WISC/WAISセミナー」準備中です

茨城LD等発達障害親の会「星の子」

星の子の活動は23年目を迎えました。幅広い年齢の子どもたちに対し、どの様な支援、環境が必要なかを考えながら活動を続けています。

年間を通じての活動として、さまざまな問題で学校や社会で厳しい状況に置かれている子どもたちのために、子ども同士・親同士の交流、研修、行政や企業などへの働きかけを行なっています。

最近では「おしゃべり会」と称して、地域の集まり、ランチ会等が開かれる事が多くなってきました。「青年の集い」として、高校生以上の子ども達の集まりもほぼ毎月行われています。「話す」は「放つ」に通じるとか。みなそれぞれに悩みや葛藤を抱えて過ごす日々の中で、思いを共有できる仲間と思いつ切りしゃべり、ともに笑い、泣き、心を解き放つひとときは、明日へ向かう元氣と勇氣を与えてくれます。

現在、2014年2月9日、筑波大学の六六一志先生を講師に迎えての「WISC/WAIS セミナー」の準備が進んでいます。このセミナーは、2013年6月に開催して好評をいただいた同タイトルのセミナーの拡大版・第2弾です。特に、学校や福祉の現場で支援に当たられる先生方、医療機関、相談機関等で検査を実施する立場にある方に、役立てていただけることを願っての企画です。

就労、自立、親亡き後の事等、今後検討していかななくてはならない課題は山積みですが、話し合っ、知恵を出し合っしていきたいと思えます。

今後ともどうぞよろしくお願い致します。

時代とともに変わること、 ずっと変わらないこと

静岡県LD等発達障がい児・者親の会「きんもくせい」

「きんもくせい」は1989年に2人のお母さんがたちあげて、来年度は25年目に入ります。さまざまな講演会や勉強会・親の集い・親子レクリエーションなどを開催してきました。「土曜教室（静岡大学大塚教授のもとと学生さんの協力で小学生が学習とソーシャルを学ぶ）」と「ホームラン（青年と親の余暇活動）」は15年以上継続しています。

全体の活動は東西に長い県の特徴から参加出来る会員が限られてしまうこと、静岡・浜松が政令市になり、地域による行政の考えや支援状況も様々になってきたことによって、2008年から、県内を4支部に分け、各支部活動を中心に、会長は任期制で各支部持ち回りとしてみました。活動が身近になり、支部内のつながりが強くなりました。会員数は減少しましたが、問い合わせはふえています。新会長を中心に役員が熱意をもって運営を改革しています。会員の現状にあわせて、無理のない活動を続けていきます。

2月の全国LD親の会主催「発達障害児のためのサポートツールの個別の使い方とユニバーサルデザイン化」事業研修会が、特別支援教育の啓発～地域格差の解消に寄与出来ることを願って準備を進めているところです。抱える問題も会に求められていることも時代と共に変わっていますが、「きんもくせい」はずっと会員の心の拠り所がありますように。

「就労ワーク」がこころの発達支援センターの 事業に組み込まれました

山梨LD・発達障害児者の支援を考える会 「いちえ会」

「いちえ会」は、平成11年に親の会として発足しました。幼児童部・青年部と分かれて定例会を行っていますが、近年は働く親御さんも多く、なかなか人数が集まらないのが現状です。

一昨年より年間5回、親講座を企画して県教育センター・こころの発達支援センター等の外部講師を招いて学習会を行ったり、先輩お母さん方の子育てについて聞いたりしています。

また、会員の子どもの為に働く体験を企画した「就労ワーク」を、支援学校の先生方やこころの発達支援センター、障がい者就業・生活センター等の外部の方々の協力を得て開催してきましたが、今年度より、こころの発達支援センターの事業として組み込まれる事になりました。更に、県障害福祉課会議で平成26年の「世界自閉症啓発デー」

の山梨県での取り組みとして、自閉症協会と協賛して行っていく事が決まりました。

本会も「相談事業」を月一回行っていますが、ホームページのメールや私書箱への手紙、こころの発達支援センター等からの相談依頼が増えてきています。相談内容は様々ですが、出来るだけ外部と連携を図りながら専門家に繋がられるようにしています。

会員も40名ならずと少なく小さな会で大きな活動は出来ませんが、他機関と連携を図りながら、今後も頑張っていきたいと思います。

親子でピザ作り

群馬子どもサポートだるまの会

10月14日(月)祝日、群馬県立東毛青少年自然の家にて「親子ピザ作り」を行いました。参加者は大人30名、高校生以上2名、中学生2名、小学生以下20名、そして、学生ボランティア9名で計63名でした。

8グループで行い、1グループにつき2枚のピザを作ります。イーストと小麦粉、塩やバターを混ぜ、よくこね、生地を作ります。子どもたちは、かわるがわる生地をこね粘土遊びのように楽しんでいました。

こねた生地を発酵させている時間、トッピングの野菜を切ります。包丁は使ったことがないという子もいましたが、大きい子がお手本を見せて危なくない程度でみんなが切りました。「たまねぎがうまく切れない～」という声も聞かれましたが、個性あふれる形で、みんなが楽しんでいました。

発酵した生地をバットに敷き詰め、ピザソースをぬり、その上に切ったたまねぎ、ピーマン、サラミソーセージをのせました。大きな釜に入れて10分ほど待つと、ピザができました。みんなでおなかいっぱい楽しく食べました。

午後は、子どもたちはレクリエーション。群馬大学教育学部特別支援教育専攻の学生さんが、いろいろなゲームを考え楽しませてくれました。その間、保護者の方は安心していろいろなお話ができました。新しく参加された方の話を聞いて、共感したりアドバイスをしたりしました。また、情報交換もできました。野外での親子活動で楽しみながら交流ができたことがよかったです。

関東ブロックは、昨年度入会された「群馬子どもサポートだるまの会」で12会になりました。年3回のブロック会議では、各会の活動報告とそれについての質疑、また各会からの提案事項などに皆で意見を出し合うなど、活発な意見・情報交換が行われています。また、全国LD親の会加盟団体の行事が関東で開催される際には、協力もいただいています。

●特定非営利活動法人全国LD親の会第7回総会のお知らせ

日時:2014年6月14日(土) 会場:国立オリンピック記念青少年総合センター (東京都渋谷区)

●第13回全国LD親の会公開フォーラムのお知らせ

日時:2014年6月15日(日) 会場:国立オリンピック記念青少年総合センター レセプションルーム

●NPO法人全国LD親の会 活動報告

- 7月31日 障害支援区分見直し案に対する意見を提出(厚生労働省)
- 8月08日 「かけはし76号」発行
- 8月27日 内閣府「障害者基本計画(第3次)案に対する意見募集」について、通知
- 8月29日 一般社団法人日本発達障害ネットワーク第9回年次大会第4回実行委員会(丹藤・内藤聖)
- 9月05日 障害者基本計画(第3次)案に対する意見を提出(内閣府)
- 9月09日 東京東部地区親の会設立準備会(木村・内藤聖)
- 9月23日 JDD ネットのペアレントメンターコーディネイト会議(内藤孝)
- 9月23日 JDD ネット理事会(東條)
- 9月26日 心理職の国家資格化に関する要望書提出(JDD ネット)
- 9月29日 高知県発達障害親の会設立準備会 教育講演会(井上・内藤孝)
- 10月04日 全国特別支援教育推進連盟理事会(多久島)
- 10月09日 改正障害者雇用促進法に基づく差別禁止・合理的配慮の提供の指針のあり方について意見提出(団体ヒアリング)(JDD ネット)
- 10月12日～14日 日本LD学会第22回大会(パシフィコ横浜)
- 10月13日～14日 日本LD学会第22回大会 親の会ポスター展示
- 10月13日 日本LD学会第22回大会 親の会企画シンポジウム(内藤孝・井上)
- 10月13日 日本LD学会第22回大会 親の会懇親会
- 10月27日 NPO法人全国LD親の会第15回評議員会、第19回理事会
- 10月28日 JDD ネット年次大会実行委員会(内藤聖)
- 11月02日 サポートツール・データベース事業運営会議(内藤孝・井上)
- 11月04日 福島県発達障害親の会設立準備会 教育講演会(東條・斗内沢)
- 11月10日 青年の交流会(神戸)
- 11月16日 特別支援教育支援員養成講座(神戸) 全7回(8/31,9/1,9/21,9/22,10/19,10/20,11/16)終了(内藤孝・井上・小林・入船・山岡)
- 11月20日 東京東部地区親の会設立準備会(木村・内藤聖)
- 11月30日～12月01日 第9回JDD ネット年次大会・JDD ネット理事会(内藤聖・木村・東條)
- 12月01日 サポートツール全国キャラバン2013「教材教具研修会」in 長野
- 12月06日～07日 全国特別支援教育推進連盟結成50年記念式典(多久島・木村・内藤聖・斗内沢)
- 12月06日 特別支援教育功労者表彰 受賞(山岡)
- 12月15日 意志疎通支援に関わるヒアリング調査書提出(日本障害者協議会)(東條・多久島)
- 2014年01月11～12日 ボランティア支援員養成講座(福岡市)(内藤孝・梅野・奥野)



●第19回理事会報告

日時:2013年10月27日 16:30-17:00 場所:神宮前穂田区民会館 1号会議室

出席者:井上育世、梅野真澄、多久島睦美、東條裕志、内藤孝子

〔審議〕

第15回評議員会における審議結果の承認:第15回評議員会における審議結果を審議し、全員一致で承認した。

- <審議内容>
1. H25年度補正予算
 2. 運営規則改定
 3. 第7回総会日程
 4. 「発達障害児のためのサポートツールの個別の使い方とユニバーサルデザイン化」の助成金申請
 5. 「特別支援教育支援員養成事業」の助成金申請
 6. 発達障害に関する書籍の発行
 7. 第13回公開フォーラムの開催概要
 8. H25年度研修会の開催概要
 9. 「あなたの生の声をお聞かせ下さい!」の各会配信